

樋脇地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H26年度末現在）	進捗状況（H27年度末現在）	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	H27当初予算	H28当初予算	事業完成分	
H24	1	藤本	藤本農村公園の拡張と公園入口のバス停設置について	建設整備課	この公園については、平成11年度に合併前の旧樋脇町において、集落環境整備事業により、整備した公園であると把握している。このような農林水産省所管の補助事業が他にないか調査してところであるが、該当するメニューが無く、補助事業での対応は厳しい。従って、実施するとすると市単独予算での整備ということになるが、御承知のとおり、厳しい財政状況であり、予算の確保についても大変難しく、公園の整備は難しいことを御理解いただきたい。								○	
H24	1	藤本	藤本農村公園の拡張と公園入口のバス停設置について	交通貿易課	バスの小型化については、バス事業所が小型バスを所有していないため、市において購入経費を負担する必要があるが、多額の経費を伴うことになり、現時点での対応は難しいと考えている。 今後、交通空白地域の解消と利用者の利便性の向上を図るため、現在、入来地域で実施しているデマンド交通、即ち、デマンド交通とは事前予約型乗合タクシー。この入来地域のデマンド交通の運行状況を検証しながら、今後、祁答院地域、東郷地域、樋脇地域においても、段階的に導入をしてみたいと考えている。これにより、ジャンボタクシー等利用による車両の小型化、岩下・菖蒲ヶ段方面への迂回路線の延長、「藤本滝」入口での乗降なども可能になると考えているので、御理解いただきたい。	H27.7 祁答院地域デマンド交通運行に向け、H26.8に地区コミュニティ会長等を対象に説明会を実施した。 また、樋脇地域においてもデマンド交通又は小型車両の導入についても引き続き検討していきたい。	H27.7 祁答院地域デマンド交通の運行を開始した。 また、樋脇地域においても、デマンド交通や小型車両の導入について、引き続き検討していきたい。							
H24	2	野下	平成23年11月工事完了「野下川砂防堰堤」からの排水溝改良工事依頼について	建設政策課	県道の横断路については、直径60cmの管がある。県道横断部から下については、市が管理する排水路であるが、幅・高さ60cmの鉄筋コンクリートのU型溝であり、かなりの急勾配である。この水路の設計された対象となる雨については、50年確率雨量が採用されている。この時出てくる降雨による排水が、県道下の暗渠を通して、水路に流れて来るが、計算上は水路の断面積としては足りることになっており、我々も確認した。急勾配については、25%の勾配があった。ただ、この勾配に水が流れると10m/秒以上の流速が出る。こうなると水が飛んで、水路側に飛び出る危険性があると考えている。これについては、大雨時の状況等を見させていただきたい。状況により、県にお願いするところは、県にお願いし、市で対応するべきところは、市で対応したいと考えている。									○
H24	2	野下	平成23年11月工事完了「野下川砂防堰堤」からの排水溝改良工事依頼について	建設維持課	県道の横断路については、直径60cmの管がある。県道横断部から下については、市が管理する排水路であるが、幅・高さ60cmの鉄筋コンクリートのU型溝であり、かなりの急勾配である。この水路の設計された対象となる雨については、50年確率雨量が採用されている。この時出てくる降雨による排水が、県道下の暗渠を通して、水路に流れて来るが、計算上は水路の断面積としては足りることになっており、我々も確認した。急勾配については、25%の勾配があった。ただ、この勾配に水が流れると10m/秒以上の流速が出る。こうなると水が飛んで、水路側に飛び出る危険性があると考えている。これについては、大雨時の状況等を見させていただきたい。状況により、県にお願いするところは、県にお願いし、市で対応するべきところは、市で対応したいと考えている。								○	
H24	3-1	市比野	市比野出張所で行っている業務内容はどのようなもので、利用者の形態(内容)及びその利用者数及び年間の総利用者数を示していただきたい。また、サービスの低下はしないとの説明であるが、高齢者や交通手段の無い市民は現樋脇支所までバス利用となり不便になると思うが、その対応策を伺いたい。	行政改革推進課	今回の見直しで、出張所で所掌している業務は、基本的に市民サービスセンターへ集約・移行する考えである。出張所での証明発行業務においては、地区コミュニティ協議会へ相談し、地区コミュニティセンターに配置している市職員である地区コミュニティ主事の協力をいただきながら、地区コミュニティセンター即ち保健センター内へ簡易型の証明発行機を移設する方法等を研究して、これまでの出張所と同様のサービスが展開できないか検討しているところである。また、全国的には、コンビニエンスストアでの証明交付のサービスも受けられるようになってきているので、本市でも早い段階で導入できないかを現課において、研究しているところである。当樋脇地域市比野地区でも遊湯館の先の交差点の角にコンビニエンスストアが建設中であると同っている。出来るだけ早い時期にこのような店舗での証明発行もできるように進めてまいりたい。									○

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H26年度末現在)	進捗状況 (H27年度末現在)	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	H27当初予算	H28当初予算	事業完成分		
H24	3-2	市比野	市民サービスセンターとなった場合に、現支所市民生活課が行っている業務は市民サービスセンターで行い、産業建設課が行っている業務は市民サービスセンターの職員が受け、本庁所管課へ引き継ぐとの説明があったが、手戻りや時間的なロスなどサービス低下とならないのか、また、災害発生時の対応として緊急性・迅速性が要求されると思うが、どのような対応策を考えているのかを伺いたい。	行政改革推進課	見直しに際しては、サービスセンターの所管業務は、支所にある市民生活課の所管業務を引き継ぎ、産業建設課、教育課の所管業務は、本庁の方で一括することを基本としている。しかしながら、産業建設課の所管業務のうち、農政関係の補助金などはこれまでどおり、サービスセンターでも申請受付できる体制、同センターで完結する体制を整えたい。具体的には、農政の窓口をサービスセンターに設け、担当職員も置きながら、そのような仕組みを構築したい。御指摘のとおり、本庁の技術職員が、当協議地域などの現場まで出向くとなると、物理的な距離の問題もあり、時間的にも要する。このため、サービスセンターで市民から御相談を受けた際は、サービスセンターと本庁の職員が迅速・緊密に連絡をとり、また、技術職員が応援・協力体制をとり、現場での対応をより確実・効率的に実施していきたい。また、災害対策に対する御不安な点もあるが、これまでどおり、市民サービスセンター、即ち支所の建屋内に、災害対策支所を設置し、支所設置時には、センターで勤務する職員に加え、本庁の建設部門・農政部門の職員を支所センターに配置する考え方である。こうしたことから、災害が発生する恐れがある段階から、実際に災害が発生し、復旧に対応する際にも、職員総力をあげて、災害対応する考えである。									○	
H24	3-3	市比野	市民サービスセンターが廃止となる平成32年4月以降は、全ての業務が本庁業務となるのか。本庁から20km以上の距離にある藤本・野下地域の住民及びその周辺部の住民は、本庁まで行くのに、一旦、市比野で川内行きバスに乗り換えて本庁で用件を済ませなければならぬ。証明書一件であっても一日掛かりとなり、住民に不便を強いることとなるが、高齢化が進む中で住民にとって大きな負担であることは明らかである。このことはサービスの低下とならないのか。その対応策をどのように考えているのか伺いたい。	行政改革推進課	平成32年目標の第2段階の再編の実施時期・内容等については、これまで住民説明会、または、現在、お示ししている再編方針(案)の中でも、書いてある。「第1段階の結果を検証するとともに社会情勢の変化や情報通信技術の進歩などを踏まえ、改めて然るべき時期に検討する」という考え方である。また、その際には先程、コンビニエンスストアでの証明発行サービスの件を一つの例として、申し上げたが、サービスセンターで済ませる業務に関して、例えば、地区コミュニティセンターや公共施設、或いは、移動連絡車(車で巡回するサービス)等の新たなサービス提供の手法を確立した上で、第2段階を進めたいと考えている。御指摘にあるように野下・藤本地区等から高齢者の方が時間をかけて、本庁のある神田町まで、出向く等の御不便・不自由をかけることのないように、改めての検討が必要であると考えている。										○
H24	3-4	市比野	1市4町4村の合併協議時には、対等合併ということで住民説明がなされ合併が合意されたと思うが、旧行政区に総合支所的なものがないのは吸収合併と同様ではないか。市政運営にあたっては、市民憲章をモットーに進められていると理解している。鹿児島県第1号の平成の大合併・広域合併を成し上げた薩摩川内市であるが、薩摩川内市の市民が本当に住み続けたいと実感でき、更には、他の市町の模範となるべく対応を講ずるべきであると思うが、市長の見解を伺いたい。	行政改革推進課	本市は平成16年、旧1市4町4村において、新設(対等)合併方式で合意され、新市として誕生し、8年目に入っていると十分に承知している。御指摘にもあるように、今後の本市をとりまく状況の変化を見据え、適宜、適切な対策を講じて市民サービスを維持していくことは私も行政(市役所)にとって、市民の皆様への責務であると考えている。今回の見直しについても、種々異論をいただいているが、歳出削減等行政改革の取り組みの一つであると考えている。組織見直しについては、住民サービスに配慮することを前提に進めたいと考えているので、何卒御理解をいただきたいと思う。以上、議題に対する御回答とさせていただきますが、冒頭、市長の挨拶にもあったとおり、住民説明会を終え、現在、市民意見を聞くパブリックコメントを実施しているところである。これまでの説明会や今後のパブリックコメントから寄せられる御意見を十分に踏まえ、最終的に判断し、進めていくと考えていることをあらためて申し上げます。										○
H24	4-1	植産	植産高校跡地の活用について	企画政策課	高校再編に際して、副市長をトップとした植産地域振興策検討会が平成18年に設置された。この検討会において、これまで県へ対して、高校跡地の活用ビジョンを早い時期に示すように要望している。 また、この議題にもあるように昨年の8月には旧植産高校跡地活用推進協議会からあらためて、地域活性化を図るため、グラウンドゴルフ場を中心とした整備について、要望書をいただいている。この要望を受けて、地元の方にも御同席いただく中、知事へ高校跡地の活用について、直接要望した。県担当窓口を教育委員会部局から知事部局へ移し、積極的に協議・検討するという例年になく、前向きな回答を得た。 また、文書でも2月に地元の公共の活用策が示された。基本的には無償譲渡は積極的に検討する旨の回答を得た。これを踏まえ、市担当部局では、県に対し、具体的な活用方策や今後の作業スケジュールを示しながら、協議している。県の回答にある土地の無償譲渡については、不要と見込まれる校舎については、県において、しっかりと解体していただくことを求め、関係当局へ働きかけたい。	不要物の解体と柔剣道場のクラブハウスの改修設計を実施中である。 また、地元でも完成後の利活用についての検討組織が発足し、検討が始まっている。 今後は、クラブハウス改修と造成工事の実施設計、造成工事へと進めていく。									○ ○ ○

植産地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況 (H26年度末現在)	進捗状況 (H27年度末現在)	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	H27当初予算	H28当初予算	事業完成分	
H24	4-2	樋脇	雇用促進住宅樋脇宿舎の活用について	建築住宅課	平成22年度に薩摩川内市公営住宅等長寿命化計画を策定した。樋脇宿舎の取り扱いについては、この計画を策定する際に、地域のコミュニティ協議会の方々と協議した。結果、購入する経路には至らなかった。雇用促進住宅について、市の方針は次のとおり。同住宅は市内に4箇所あり、このうち川内宿舎と入来宿舎については、既存の周辺の市営住宅の用途廃止等に伴う代替住宅として取得し、新たに市営住宅を増やすのではなく、既設の市営住宅用途廃止に伴う代替住宅とする。 樋脇支所管内の昨年度の応募状況を見ると、15戸の募集に対し、応募は9件で、そのうち実際に入居したのは8件であった。この状況から、現時点において、特設住宅が不足しておらず、仮に購入しても、入居者の確保が難しいと思われる。従って、同樋脇宿舎の購入は考えていない。しかし、今後、定住希望者等があり、市営住宅等が必要となる場合には、空いている市営住宅の活用は勿論のことであるが、昨年度から市で調査している空き家の活用、または、借上型市営住宅制度があるので、市公営住宅等長寿命化計画の見直しの際に検討したい。									○
H24	5	倉野	元村新田用水路の復旧改修について	耕地課	土地改良区の方々と始め、地元の皆様方と、実施方法・時期等を含めて、十分に相談させていただき、できるだけ早期に対応させていただきたい。ただ、担当課(耕地課)に確認したところ、事業を着手してから工期が少なくとも2~3月かかるとのことである。そうすると、誠に申し訳ないが、今年の田植えには間に合わないという点をお詫言わせていただきたい。冒頭、倉野地区コミュニティ協議会長さんからもあったように、広大な40町歩の水田、及びその維持のために非常に重要な用水路については、300年前の先人の御苦労も恩げられるところであった。維持・修繕のために地元と御相談しながら、できるだけ早めに対応したい。									○
H24	その他	市比野	市比野地区にスポーツ合宿等で、県外の方も合宿されている。その中で丸山運動公園もあるが、その利用の一環として、ジョギング・ウォーキング等を利用されている場所がある。樋脇町から入来町へ延びている中ノ原台地となっており、お茶畑があり、その中に農道が整備されている。これを見ていて思うが、非常に空き缶の投げ捨てやゴミなどが散らかっている。	環境課	環境美化については、環境美化推進条例を市で作っており、また、地域の皆様方にも、環境美化推進員を選定していただき、活動していただいている。 御指摘の件については、再度、現場を確認させていただき、対応をさせていただきたい。場合によっては、地域の皆様方の御協力をお願いしたい。	不法投棄については、環境美化推進員等による定期的なパトロールを実施しており、ご要望により不法投棄防止の看板の設置も行っている。悪質な不法投棄に対しては警察と連携し強い指導を行っている。また、不法投棄防止策であり市のイメージアップのため花いっぱいまちづくり推進事業を推進している。		○	○	○			○	
H24	その他	市比野	樋脇町から入来町へ延びている中ノ原台地となっており、きれいなお茶畑で、環境的にも良い場所である。また、農道と畑の境界の杭がある。機械化されている関係かもしれないが、その杭がなぎ倒されてそのままの状態である。お茶が農道にはみ出した状態で、生産されている。見た目として、如何なものか、当局の問題でないかもしれないが、対策がとれるようであれば、考慮していただきたい。	耕地課	農道等の境界杭の関係について、御指摘をいただいた。まず、場所を確認させていただき、場合によっては、地権者の方々と話ができないかどうか、そこも含めて調査させていただきたい。									○
H24	その他	市比野	入来地域にもスポーツ少年団の組織を作っていたが、そのスポーツ少年団が中学校の部活に上がり、また、川薩清修館高校のホッケー部を支えていくようになっていただきたい。	市民スポーツ課	御存知のとおり、子供の数も減っているのので、各地区のスポーツ少年団の維持にも大変苦慮されているようである。ホッケーという特殊な競技であるので、指導者確保の問題や様々な問題等もあると思う。できれば、個別に交渉されたり、立ち上げ方等もノウハウもあるのではないかと。この件については、体育協会へつなぎたい。	平成25年度回答と同じ								
H26	1	藤本	旧藤本小学校教職員住宅の売却について	財産活用推進課	公売により2棟とも売却したい。	平成26年度に2棟を公売し1棟は売却した。 今後、残る1棟も売却できるよう情報発信を行っていく。 ・H26.7.28 不動産鑑定評価現場確認 ・H26.9.22 不動産価額評定委員会 ・H26.11.26 広報紙(11/25号)、HP更新 ・H26.12.1~12.18 入札参加申込期間 ・H26.12.8 現場説明会 ・H27.1.7 入札	昨年公売以降、随時売却物件として、広報誌やHPで告知し、平成27年9月に、残る1棟についても売却を行った。							

樋脇地域まちづくり懇話会 進捗状況一覧

開催年度	議題	地区	議題内容	所管課	回答概要	進捗状況（H26年度末現在）	進捗状況（H27年度末現在）	地区振興計画	H25当初予算	H26当初予算	H27当初予算	H28当初予算	事業完結分
H26	2	野下	避難場所（旧野下小学校体育館）のトイレの洋式化について	財産活用推進課	可能な限り、早めに大人の使える様式トイレの設置を検討したい。	平成26年度に男子トイレと女子トイレに1か所ずつ洋式トイレを設置した。 ・H26.11.12 現場協議（建築住宅課） ・H26.12.27 現場説明（コミ協会長ほか） ・H27.1.6 方針説明（コミ協会長ほか） ・H27.1.19～2.27 改修工事 ・H27.2.27 完成	平成26年度完了済み						
H26	3	市比野	原子力災害発生時の広域避難計画に伴う、地区住民避難集合場所迄のバス進入道路改良工事について	建設整備課	新規の路線整備については、地区コミュニティ協議会会長さん等と協議をし、優先順位を決めたい。 小学校の裏門の門柱については、教育委員会を通じて、門柱を移設して、幅を広くできないかを小学校と協議したい。 市道和田線の路面の悪いところや校庭に入る段差のあるところについては、市道上之湯新開線の整備工事に併せて実施したい。	小学校裏門の門柱、校庭に入る段差については、教育委員会及び樋脇支所地域振興課で対応済み。							○
H26	3	市比野	通学道路新開湯・武田線の道路拡幅改良工事について	建設整備課	新規の路線整備については、地区コミュニティ協議会会長さん等と協議をし、優先順位を決めたい。	樋脇地域については、平成26年度に2路線（上之湯新開線・武田水戸線）を整備中である。新規路線については、地区コミュニティ等と協議し優先順位等を決めたい。	現在整備中の路線の完了後、新規路線については、地区コミュニティ等と協議し、優先順位等を検討したい。						
H26	3	市比野	市道村子田・鹿子田線と県道川内・加治木線（空港道路）の交差点信号機の設置依頼	防災安全課	一般的に信号機の設置については、市の判断ではできない。県の公安委員会が設置を認めなければならない。現段階では、当箇所についても厳しい状況である。しかしながら、交通環境の変化については、関係機関と注視してまいりたい。	交通環境の変化について、注視している状況である。また、平成27年春の道路診断を実施予定である。	平成27年春（5月20日）に道路診断を実施し、交通量が多く、スピードが出る危険箇所後に設置されている信号機の時間と周期サイクルを、警察署において変更し、要望箇所の横断歩道に車両が差し掛からないように調整を検討した。						
H26	3	市比野	市道竹山・武田線（市道村子田・鹿子田線の延長）と県道樋脇・串木野線との交差する三差路部に点滅信号機の設置依頼	防災安全課	県道樋脇・串木野線については、空港道路から下之湯橋の手前の交差点まで、横断歩道が一箇所も無い状況である。そこで、御要望の箇所に横断歩道が設置できないか検討したい。横断歩道の設置についても、信号機と同様に、必要性等を県公安委員会に認めてもらう必要がある。横断歩道の設置について、今後、関係機関と協議したい。	視距が確保されており、また、交通量も少ないため設置の必要性は低いと思われる。 一なお、平成27年春の道路診断を実施予定である。	平成27年春（5月20日）に道路診断を実施した結果、点滅信号の設置の必要性はないという警察の判断であった。代替措置として、左側を通行すれば横断せず済むことから、ガードレールの改良と外側線の位置変更をして左側を通行させる案が提示された。要望も出ていることから、警察署において交通量、歩行者の通行量を再調査するとのことであった。						
H26	4	樋脇	樋脇のシンボル「丸山」の整備について	林務水産課	丸山の市有林管理者として、落石から安全確保を図ることが最優先と考え、入山を御遠慮いただいている。 しかしながら、安全な山道の確保について、何とかならないかと御要望もある。新たなルート等について、地元の方々の御意見を聞きながら、一緒に検討させていただき、今後進めていきたいので、御理解をお願いしたい。	樋脇のシンボル「丸山」の山道について、樋脇支所、地区コミ、地元関係者と検討を行った。 山道の入山については安全確保を最優先とし、今後の利活用や立ち入り規制について御理解をいただきたい。							○
H26	5	倉野	元村新田用水路の改善について	耕地課	平成24年度の当懇話会において、御要望のあった山手側の水路の崩落箇所については、延長にして約16mの側溝敷設工事を実施した。また、現地を調査した際に、側溝改修箇所とトンネルまでの間に漏水箇所があったので、現在、改修に向けて準備を進めている。なお、改修工事については、地元工事負担金が発生するので、事前に協議させていただきたい。	分水路堰の改修を実施した。山手側の水路改修については、水利組合と協議をし、緊急性を考慮しながら、計画的に整備を行いたい。							○